

木版画（黒色一版刷り）授業の流れ

① 作画のテーマ「自分の好きな歌の歌詞にもとづくイメージ画」あるいは

「手のある風景」——どちらかを選択する。

*彫刻刀の種類を様々に組み合わせ、複雑な表現をめざす。(単純は不可)

*どこまで細かな表現が出来るか、挑戦してみる。

○「歌詩にもとづくイメージ画」は歌詞の説明画にならないこと。歌詞から連想すること、想像すること、感じることを、絵(版画)で表現する。

○「手のある風景」は手を題材にしたイメージ構成画。手の表情は様々にある。つかむ、指し示す、握る、開く、つまむ、形づくる・・・など。そのポーズから連想する何かと組み合わせ、ひとつの世界を作ってみる。

● 次回の用意 使用する歌詞(CDの歌詞カード、そのコピー、手書きのメモなど)

② 歌詞にもとづくイメージのラフスケッチ(アイディアスケッチ)あるいは手のポーズを考えてラフスケッチ

- ・ クロッキー紙の4分の1の大きさで、鉛筆でたくさん描く。
- ・ 手で考える。描かないで考えていると何も生まれない。一本ひいたその線から、何か新しい形が生まれてくる。
- ・ イメージが出てくると、写真など資料が必要となる。(時計、列車などをマーク的表現からリアリティのある具体的なものへ) ——●次回までに資料を用意できると、レベルアップ、高校生の作品になる。

③ ラフスケッチのまとめ

- ・ 版木の大きさで、ていねいなスケッチにまとめる。ある程度、白黒の版画を意識して作業する。 版木のサイズ30cm×22.5cm
 - ・ アクリル絵の具セットの配布と説明
 - ・ 版木配布——オレンジ色に、たっぷりの水でうすめて版面へ着色
- 次回までに下絵のまとめと資料の用意を

④ 黒い紙への下絵

- ・ 黒い紙の中央に版木を置き、周囲を鉛筆でなぞり版木のサイズを決める。
- ・ ラフスケッチのまとめを見ながら、鉛筆で下書き。
- ・ アクリル絵の具の白で描く。白で描いたところは彫るところ。黒い線を細く残すところなどは、先に白く塗ってしまい、あとから黒で描くと能率がよい。

作業の工夫をすること。白の絵の具は水を少なく、濃い目に使用する。

- ・ 釘による点の表現や、紙やすりでぼかすところなどは、白絵の具をうすめに使うとかの工夫をする。
 - ・ この作業で版画の仕上がりのイメージがじゅうぶんに得られる。白と黒のバランスをよく見て、気に入らなければ黒絵の具でその部分を元に戻し、納得の行くように描き直しをする。
- 次回までに完成させておく(宿題)

⑤ 「黒い紙への下絵」を版木にトレース(写す)する。

1. 黒い紙の下絵にトレーシングペーパーを重ね、ソフトテープで固定する。(1辺の2箇所につけ、めくって下絵が見られるようにしておく。)
2. 主要な線を黒ボールペンでなぞる。(彫るときのアドリブも考えて、何が主要な線なのかを判断すること)
 - ・ 雲、波、細かな星など、不定形や彫るときにアドリブがきくものは、おおまかにその範囲などを写しておく。
 - ・ 線を写す場合、その線のセンターラインを写せばよいもの、その線の両サイドを写したほうがよいものがある。よく考えて判断する。
 - ・ 画面サイズの枠も忘れずにトレースすること。
 - ・ 写し残しが無いか、めくって確認してからトレースペーパーを下絵からはがす。
3. 版木の表面(オレンジ色で着色)に、トレースペーパーを裏返して枠に合わせて重ね、ソフトテープで1辺2箇所を固定する。
4. 版木とトレースペーパーの間にカーボン紙(黒い面を版木側にする)をはさむ。
5. さらに、カーボン紙とトレースペーパーの間に、白い紙をはさむと線がよく見える。赤ボールペンでなぞり、トレース完了。(2.で黒ペン、5.で赤ペンを使ったのは、トレースの作業でのミスを防ぐ工夫。ほかの色で分けてもかまわない。)
6. カーボン紙は返却すること。トレースペーパーと黒い紙の下絵はスケッチブックにはさんで、保管すること。彫る時にも使います。

⑥ 彫り

- ・新聞紙を広げ、周囲を3～4cm折り曲げ堤防にして、版木を彫る作業台紙とする。
- ・版木刀の使い方——手前にひく
- ・その他の彫刻刀の使い方——先に押し出す
- ・彫りの効果を考えて、同じ刀ばかりを使わないこと。（別プリント参照）
- ・太い釘による点（白い点）の表現
- ・紙やすり（サンドペーパー）によるぼかし 平刀によるぼかし
- ・彫り残した凸部は、すそ広がり台形状にすること。
- ・どの程度までの深さに彫るか
- ・ケツ落ちについて その防止方法とその生かし方（彫りのタッチ、方向など）
- ・彫刻刀の研ぎ方 刃物砥ぎ機の使い方
- ・彫り方による表現の違いの例 A. B.
A. は版木刀で四角に深く切り込み
を入れ、それにぶつけるように彫
った。B. は四角に線を彫ってから。
A. と B. の違いに注意

⑦ 刷り（摺り）＝すり

- ・各机に ローラー2本、 インクの練り板（引き出しごと）2枚、
ぶんちん2～3本、 バレン 人数分
- ・インクの出し方——練り板のはじめに適量を（出し過ぎないこと）
- ・ローラーと練り板は、作業後、ラップをかけておく。水性のインクなので乾燥させると良くない。
- ・版の上においた和紙を手で押さえないこと。（手、指がバレンと同じ役目をしてその後が濃い黒で刷られてしまう。インクは粘りがあるので、押さえなくてもずれない。）
- ・バレンの油切れに注意する（油がなくなり、摩擦が強くなると紙がずれたり、紙を傷めたりする原因となる。また多すぎれば、紙に染み込んでシミになる。バレンに油をひき、布で軽く拭き取った程度で使う。目安は1枚刷るたびに1回油を引く。）
- ・余白部分を汚さない。（手の汚れは常に気をつける。）
- ・インクのつけすぎ、つけむらに注意。よくローラーにインクをからませること。少ない場合は足せばよいが、べっつりのせてしまうと、版の凹部にインクが入ってしまい、正しい刷りが出来なくなる。
- ・ケツ落ちの効果も見てみる。白を求める場合は必要によりあて紙を作る。